

宮本さん(手前)の指導でバターロール作りに挑戦する竹下舞さん。奥は母・弘枝さん。阿蘇市の夢屋



# たのしいパン作り

## 大津養護学校の竹下さん

### 阿蘇市「夢屋」で実習中

阿蘇市一の宮町宮地で手作りパンを販売する障害者の小規模作業所「夢屋」(宮本誠一代表)で、県立大津養護学校高等部二年の竹下舞さん(一七)が現場実習に励んでいる。夢屋が本格的な実習の場所選ばれたのは初めて。

実習は十五―十七日の三日間。知的障害のある舞さんが夢屋を実習先に選んだのは、阿蘇北中二年の時、体験学習で夢屋を訪れパンをこねたり綿菓子を作ったりしたこと がきっかけ。「とにかく楽しく過ごせる場所で実

作業に真剣な表情で取り組んだ。

パンが焼き上がると、舞さんは母校の阿蘇北中(同市三久保、工藤重行校長)に配達に出掛けた。当時の担任教諭らから「大きくなったな」などと声を掛けられ、照れくさそうだった。

大津養護学校の担任・守田和代講師(三八)は「ゆっくりしたペースで動けるし、声を上げて笑うことが何度もあった。本人にとってもすごくいいと思います」。弘枝さんも「アットホームな感じで皆さんとても優しい。たった二日間しか来ていないのに、そんな気がしません」と喜ぶ。

宮本さん(四三)は「夢屋を立ち上げて十一年たつが、地元にも障害者が研修できる場所があるとようやく知ってもらえるようになった。それがうれしい」と話している。

習させたかった」と舞さんの母弘枝さん(三九)。

舞さんは十六日、他の通所者らと一緒にパンに付けるお礼のカードに色を塗った後、宮本さんの指導でバターロール作りに挑戦。パン生地をこね、薄く延ばした生地を丸めて発酵機に入れるなどの